

# あすぴあ登録団体 & 市民活動団体の紹介

## こんな活動をしています

Vol. 51

あすぴあ広報部会が取材しています。

定期的に会報を出している団体を中心にインタビューしました。

## 小平図書館友の会

小平図書館友の会は、1998年発足。図書館利用者が作った会です。会の目的は、「小平市の図書館の発展と充実に寄与するとともに、図書館利用者の交流を図る事を目的とする」(会則)。2026年4月現在の会員数105人。会報は2種類。会員の交流紙として「らいぶらりーふれんず・こ दौर」(月1回程度)、一般向け会報(年2回)があります。

会報担当のお二人に伺いました。

Q. 会報を作るにあたっての工夫は？

A.1 図書館友の会を知っていただき興味を持ってもらえるように、活動内容を詳しく伝えています。昔に比べ印刷機も機能が向上したので写真も多用しています。

A.2 読みやすさ、見やすさ、インパクト

Q. どんな会報にしたいと思っていますか？

A.1 友の会自身も新しい企画にチャレンジし、それを記事にできたら、と思います。図書館や公民館で会報が並んでいるのを見るとまずは表紙が目につきます。手に取ってもらうためには表紙の記事を大事にしたいです。

Q. 苦労していること、楽しいことは？

A.1 メインの記事を何にするか、誰に原稿を依頼するか、毎回悩みます。また校正が必要な原稿を受け取ると難しいと感じます。文章力は外から見えませんから、初めての方に原稿依頼をするときは 内心ドキドキです。印刷されて完成版を手にとるとやはりホッとします。

A.2 レイアウト(予定ページ数に収めるための調整)。楽しいこと：号ごとの特集を工夫すること。印刷された会報を見たときの喜び。

これからも、図書館友の会に興味を持ってもらえるような紙面をつくっていききたいとのことでした。(い)



▲会報 55号印刷 あすぴあ交流スペースにて

### DATA

連絡先 ● 090-1707-0860

メール ● kitomonokai@gmail.com

ブログ ● http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kitomonokai/

## 子育てサークル KOGUMA CAFE

今年の3月「子育てサポートきらら\*」さんが活動を終了しました。公共施設などで行動を共にするようになっていた「子育てサークル KOGUMA CAFE」さんは、活動を引き継ぎたいと手を挙げ、「こぐま通信」を創刊しました。

それまでも「こぐまのわっかっか\*」というWEBサイトを公開していましたが、A4サイズの広報紙は睡眠不足で疲れたママさんたちの目にも留まりやすいと言います。QRコードで記事の詳細情報も分かり便利です。

情報の選択や伝わりやすい表現方法など、「きらら通信」を発行していた大先輩のアドバイスをもらって編集をすすめているそう。紙面冒頭に「子育てがさらにワクワクする！」とあるのも目を引きます。



▲子育て真っ最中のスタッフやサークル参加者と情報交換をしませんか？



▲こぐまのわっかっか HP

もう一つ「子育てほっとサポート こぐま\*」の名称でイベント保育事業も引継ぎました。ご自身の体験から小さい子どもを育てる保護者には「ほっとできる場所」が必要と強く感じています。地域の安全基地からこどもの育つ姿を見たい！と。(さ)

\*子育てサポートきらら……活動歴は2001年～2026年。  
\*こぐまのわっかっか……東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)のボランティア・市民活動総合基金「ゆめ応援ファンド」の支援を受けてサークルメンバーで作成。  
\*子育てほっとサポート こぐま……あすぴあに団体登録しているのはこちらの名称です。

### DATA

こぐまのわっかっか URL ● <https://www.koguma-waccacca.com/>  
KOGUMA CAFE Instagram ● [https://www.instagram.com/ko.guma\\_cafe/](https://www.instagram.com/ko.guma_cafe/)  
KOGUMA CAFE 公式 LINE ● <https://lin.ee/sQ8ZKkyr>

定期的な子育て広場の運営も行っています



▲子育て中のパパやママ向けに、おすすめ絵本の紹介や地域のイベント情報などを掲載中です

## 小平井戸の会

本年の4月18日に、中央公民館の団体活動室で、団体代表の金子尚史(かねこたかし)氏にお会いして取材をしました。

最初に、団体の姿を簡単に紹介いたします。団体の創設者は現在の代表の金子氏で、2015年1月17日(阪神淡路大震災の満20年の節目の日)が創設日です。その後、2023年にはNPO法人に登録しました。

創設の目的は、震災時に井戸を通して市民の安全、安心に寄与することで、近場に震災用井戸のある住環境の実現を目指して活動をしてきました。

会員数は100名ですが、その内訳は正会員40名、賛助会員30名、井戸の友の会30名です。その他にサポーターが200名いますので、それらを入れると300名になります。



▲会員保有の井戸



▲日本水大賞の授賞式

活動の内容と方法は以下の通りです。

- 1) 奇数月に定例会、偶数月に理事会を開催
- 2) 活動の分野は、調査、啓発、広報、協働、連携の5つで、主たる活動は市民の井戸の調査、井戸の地図の作成、出前講座の実施
- 3) 広報

広報活動の重点は、会報の作成と発行で、団体創設の半年後からスタートして、直近の2026年4月でなんと230号となっています。

最大の特徴は、最初から会報を紙で作成し、配布するのではなく、会員向けにはパソコンで電子データとして作成し、メールで送付するとともに、会員以外の不特定多数の方にはHPにアップして、見ていただくようにしていることです。

また、会報の企画・編集は代表が行っていますが、原稿の執筆は会員、およびサポーターに依頼しています。しかし、執筆者がいない場合は、代表が執筆していますが、その数は少なくなっているそうです。メールおよびHPでの配信は、経費節減が最大の理由と聞いていますが、今や時代の最先端を行く方法となっています。素晴らしいと思います。(細)

### DATA

代表 ● 金子尚史  
連絡先 ● 080-6689-3097  
メール ● taka-kaneko@jcom.home.ne.jp  
HP ● <https://www.kodaira-idonokai.tokyo>